

平成28年度
事業報告書



社会福祉法人 ゆたか会

平成 28 年度 社会福祉法人ゆたか会事業報告書

はじめに

平成 28 年度、社会福祉法人ゆたか会の事業計画は、平成 29 年 4 月 1 日から完全施行される改正社会福祉法と、障害者総合支援法の 3 年後を目途とした見直しへの対応に主眼を置き以下の事業を実施しました。

◎ 社会福祉法改正関係

1. 経営組織のガバナンスの強化

改正にともなう定款の変更は届け出済みです。新評議員につきましては、法に基づき評議員の選任解任委員会を設置し選任いたしました。新理事の選任につきましては、業務執行理事の責任を全うできる理事が就任すべきと考え、本日提案の通りです。

2. 事業運営の透明性の確保

事業報告、財産目録、貸借対照表、収支決算書及び監事監査意見書等については、本年度の評議員会終了後、速やかに事業所に備え置くと共に、ホームページや広報誌に掲載して公表いたします。

3. 財務規律の強化

役員報酬については、これまで通りの実費支弁とします。社会福祉充実計画については、本年度、本法人は対象事業所とはなりませんので計画の立案は行いません。

4. 地域における公益的な取り組み

加西市社会福祉協議会と連携して「社会福祉法人の連絡協議会」の設立を図り、地域福祉の充実を目指しています。

◎ 障害者総合支援法の 3 年を目途とした見直し関係

1. 常時介護を必要とする人たちへの支援

障害の重い人たちのグループホーム及び生活介護事業の実施に向け、以前購入した「フラワーシルバーハイツ」の改修を、加西市の補助金 1 千万円を受けて行っています。開所は本年 8 月を予定しています。尚、改修費用は 1 億 3 千万円、4 社の指名競争入札で高部工務店が落札いたしました。GH は「大空」、生活介護事業所を「輝き」と命名しました。

2. 就労支援

水耕栽培につきましては、職員配置の問題と地域との連携（農福連携）の在り方等の問題で、再検討いたします。

THREE-P の改修計画につきまして検討した結果、1 階を飲食店（喫茶店兼バル）2 階は作業場、3 階を発達障害者の人たちを対象とした生活訓練事業所として、平成 30 年の施設整備の国庫補助を申請する方向で検討しています。尚、1 階、2 階は就労継続 B 型とします。

◎ 人材確保

人材確保におきましては、ハローワークや求人会社、福祉就職フェア等を活用した求人情報の提供。法人事業の可視化を図るための総合パンフレットの作成。ボランティアの機会を増やし、障害者、高齢者とふれあう機会をとおして、福祉の現場に興味を持ってもらう活動により人材確保を進めています。即効性はありませんが、体験と可視化の相乗効果により、今後、結果が得られると確信しています。

1 希望の郷

◎事業の実施状況

平成 28 年度は、「利用者一人ひとりが輝き、明日に希望が持てる支援の展開を図る」ことを中長期目標に置きながら、①利用者それぞれの思いを実現させる、②ゆとりを持って質の高い支援を行うことを重点目標として取り組んだ。支援の礎となる個別支援計画では、利用者の意見、意志が日々の生活に反映されるよう、聞き取りの機会を多く取るようにするとともに、計画の立案、実施、振り返りなどこれまでは職員が中心となって行ってきたものについても利用者が参画できる機会を増やし、個別支援計画を自分のものとして意識してもらえるように努めた。また、思いをうまく表現出来ない利用者については、会議等において職員複数の目線で検討することで利用者個々のニーズを見定め、計画に反映するようにしており、施設全体として利用者主体の支援が出来るようになってきている。

また、ゆとりある支援の展開という点では、事業内容、支援体制を見直し、業務時間の中に定型業務以外の利用者支援に当たる時間を多くとるようにした。これにより、利用者と関わる時間が増え、居室の整備、身だしなみなど生活に関する支援や、作業に関する支援、通院など健康面での支援、家庭訪問等家族とのつながりに関する支援など、今まで十分に行えなかった支援についても充実させることが出来てきた。また日々の生活支援の中では、利用者とゆっくり向き合う時間が増えてきているとともに、気持ちに余裕を持って穏やかな関わりが出来るようになってきている。

◎事業の評価

・施設入所支援事業

28 年度入所者数 52 名（28 年度実績：退所 1 名、入所 1 名）

施設入所支援事業では安全で安心な暮らしの中で家庭的な生活空間を提供できるよう支援を行った。利用者個々のニーズが反映されるよう個別支援計画および支援票に基づいて支援を行っている。支援体制を変更したことで、居室の整理など間接的な支援にも手が届くようになってきている。また、施設内にカメラを設置したことで、特に夜間などは迅速、的確な対応が行えるようになり、利用者の安全で快適な生活につながっている。食事面では栄養ケア計画を個別に作成、実施することで安全で楽しい食生活が送れるようになっている。

・生活介護事業

28 年度登録者数 65 名（うち 3 名は入院中）

農作業、パン工房、授産作業、創作活動、療育活動などを利用者のニーズに合わせてグループごとに活動提供している。試行的に行っていた水耕作業については、運営費、設備、人員の面から事業の拡大は行わず、既存の設備のみで行うこととした。現在は毎日の活動提供として利用者が参加出来るようになっている。また、これまでニーズに上がるもなかなか実施することが出来なかった高齢者、身体障害者を中心とする身体機能の低下に対する支援については、理学療法士を配置することで専門的かつ安全な支援が提供できるようになった。その他、音楽レクリエーションや休日営業日の活動として DVD 鑑賞会やゲーム機を使ったカラオケ大会といった余暇活動も提供するようにした。今後も活動の幅を広げていくとともに、活動に合わない利用者に対して個別の活動提供を検討していくことが求められる。

・短期入所事業、日中一時支援事業

短期入所事業 28年度実績：年間延利用日数 2296日 平均利用率 78%

日中一時支援事業 28年度実績：年間延利用日数 520日 平均利用率 36%

両事業においては、27年度までは出来るだけ多くの利用者を受けようとしていたが、緊急時の受入れが出来ない状況もあった。近年、地域の受入事業所が増えていることもあり、28年度から最大限受けるのではなく、少しゆとりを持たせるようにした。結果、短期入所は前年度の約1割減、日中一時支援事業については4割減となっている。日中一時支援については通所者の延長利用分を計上していないことによるもので、実際の利用者数はほぼ変わらず、土日の利用は満床の状況である。

28年度より長期の短期入所者についてはそのニーズに答えることが出来るよう、個別支援計画の作成をし、相談支援事業と連携をとりながら支援にあたっている。

◎次年度へ向けて（課題と方向性など）

- ・利用者支援の大きな方向としては、中長期目標の実現に向け、生活支援と職員の資質向上に重点を置いて取り組んでいきたいと考えている。計画的な職員研修の実施や、会議における個別支援の検討、現場でのディスカッションなど、OJT,OFF-JT 両面から組織的に向上を図っていきたい。
- ・支援の質をより高めていくため、「希望の郷の理念・倫理」に立ち返って意識の向上を図るとともに、個別支援計画の浸透を図り、利用者一人ひとりに寄り添う支援が出来るようにしていく。
- ・個別性を強くしている分、対応の変更などに職員がついていけない状況がある。統一した支援を徹底させるためにマニュアルを再整理し、シンプルに分かりやすく示していく必要がある。
- ・職員がゆとりをもって利用者に関わることが出来るようになってきていることは、利用者の権利擁護・虐待防止といった視点から見ても重要な成果であると思われる。研修を通しての意識改革も含めて、引き続き取り組んでいくテーマであると考えている。また、勤務時間、勤務形態などが過剰にならないよう配慮することで働きやすい職場環境づくりを行い、離職率の低下を図り、長期的な視点での職員育成を図っていきたい。
- ・パン工房については客数が大幅に増えてきていることで、従来の運営方法では対応できなくなっている。設備面も含めて抜本的な見直しが求められる。
- ・短期入所、日中一時利用事業については、緊急時も含めて地域のニーズは高い。今後に向けては利用者の受け入れ数、支援体制、活動スペース、居室数の確保などが課題としてあげられる。
- ・28年度、施設入所支援事業の利用者1名、短期入所事業の長期利用者1名が亡くなられた（1名は低ナトリウム血症、1名は急性硬膜下血腫）。2名とも早期より個別に会議等を通し、職員間で連携を図り安全対策に努めてきたが、残念な結果に終わることとなった。今後より一層、安全に対する意識を高めるとともに適切な支援体制を整え、利用者一人ひとりの命を大切にしていく。

平成28年度 短期入所事業実績

合計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
宿泊	192	156	185	185	193	184	213	199	204	198	193	194	2296
利用率	80%	63%	77%	75%	78%	77%	86%	83%	82%	80%	83%	78%	78%
日中	39	44	39	52	47	42	52	42	46	35	38	44	520
利用率	33%	35%	33%	42%	38%	35%	42%	35%	37%	28%	33%	35%	36%
1/4	1	4	2	5	4	3	5	3	4	3	3	4	41
2/4	33	36	29	41	36	30	36	30	33	28	28	32	392
3/4	5	4	8	6	7	9	11	9	9	4	7	8	87
計	231	200	224	237	240	226	265	241	250	233	231	238	2816
一日平均	7.7	6.45	7.47	7.65	7.74	7.53	8.55	8.03	8.06	7.52	7.97	7.68	7.69

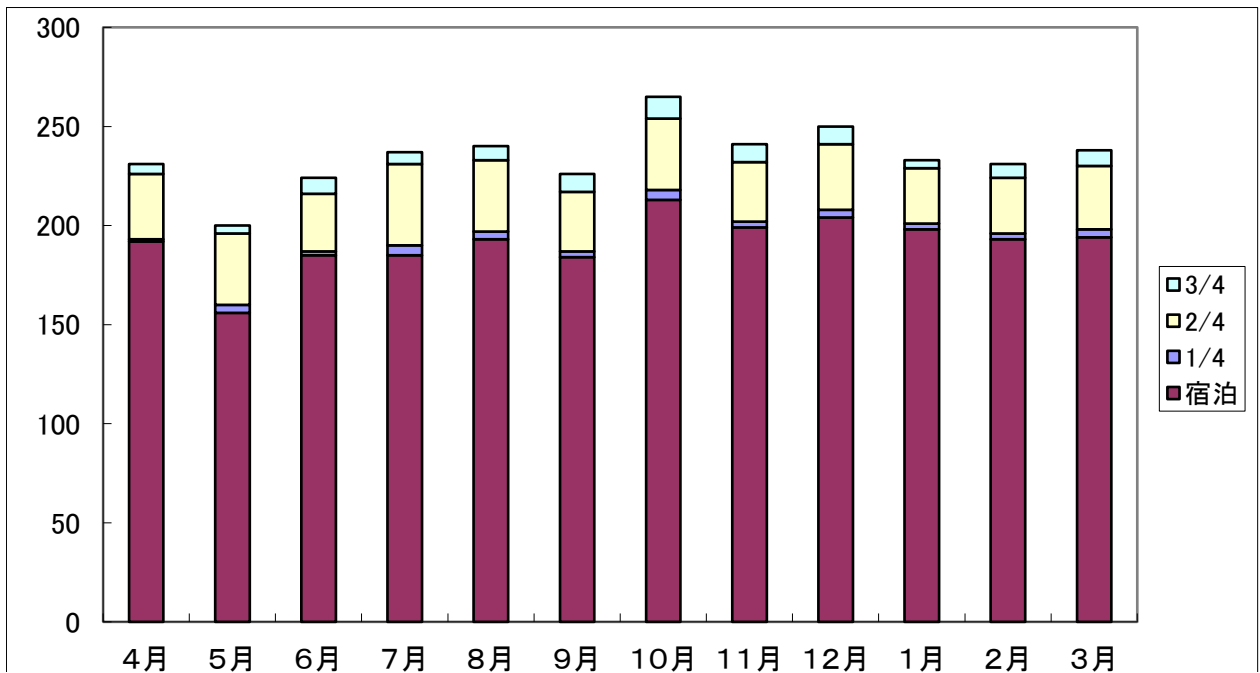
内訳:

知的

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
宿泊	188	155	180	181	186	181	210	199	199	194	189	188	2250
日中	35	37	36	38	37	38	46	34	41	29	35	33	439
1/4	1	2	2	3	2	3	4	1	4	2	3	4	31
2/4	29	32	27	30	30	26	32	25	29	24	25	21	330
3/4	5	3	7	5	5	9	10	8	8	3	7	8	78
計	223	192	216	219	223	219	256	233	240	223	224	221	2689
一日平均	7.43	6.19	7.2	7.06	7.19	7.3	8.26	7.77	7.74	7.19	7.72	7.13	7.35

児童

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
宿泊	4	1	5	4	7	3	3	0	5	4	4	6	46
日中	4	7	3	14	10	4	6	8	5	6	3	11	81
1/4	0	2	0	2	2	0	1	2	0	1	0	0	10
2/4	4	4	2	11	6	4	4	5	4	4	3	11	62
3/4	0	1	1	1	2	0	1	1	1	1	0	0	9
計	8	8	8	18	17	7	9	8	10	10	7	17	127
一日平均	0.27	0.26	0.27	0.58	0.55	0.23	0.29	0.27	0.32	0.32	0.24	0.55	0.35



ボランティア受入実績

内容	団体名	場所	日付
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年06月06日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年07月04日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年08月08日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年09月05日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年10月03日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年11月07日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H28年12月12日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H29年02月06日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H29年03月06日（月）
利用者散髪	マロン理容室・ブラウ	希望の郷	H29年04月17日（月）
クリスマス会	市内中学校など 計14名	希望の郷	H28年12月17日（土）
ふれあいまつり 利用者付き添い	北条高校、善防中学校、 関西福祉大学ほか 計32名	下里ふれあいセンター	
清掃	明るい社会づくり運動	希望の郷	H28年10月11日（火）

実習受入実績（保育・介護体験実習）

団体名	場所	日付
関西福祉大学 社会福祉実習	希望の郷	H28年08月17日（水）～ H28年09月24日（土）
神戸常盤大学こども教育学科	希望の郷	H28年08月16日（火）～ H28年08月31日（水）
兵庫県社会福祉協議会 現場実習（宿泊） 2名	希望の郷	H28年11月16日（水）～ H28年11月18日（金）
兵庫大学短期大学部 2名	希望の郷	H28年11月21日（月）～ H28年12月03日（土）
兵庫大学短期大学部 2名	希望の郷	H29年02月01日（水）～ H29年02月12日（日）

実習受入実績（職場体験実習）

団体名	場所	日付
加西特別支援学校	希望の郷	H28年06月06日（月）～ H28年6月17日（金）

2 相談支援事業所はんど

1. 事業の実施状況

①総括

平成 28 年度は、事業所の体制を見直し、相談ケースを通じて、各職員の意識変革と連携をすすめる第一歩となる一年であった。加西市障がい者（児）相談支援センターやすらぎが、加西市の委託相談支援事業所として、一般相談だけでなく、計画相談の対応、地域連携や地域作りのしくみに取り組む中、相談支援事業所はんどは、計画相談中心に加西市外の利用者対応を行ってきた。やすらぎでは、障害福祉サービスの調整をすることが多く、抱えるケースは日々増えているため、一般相談に対応する時間的な余裕がなくなっている。虐待ケース等への緊急対応もできる体制が必要である。はんどへのケース引き継ぎをスムーズに行い、相談支援事業所はんど全体として、計画相談業務を遂行できるよう調整を図った。

加西市障がい者（児）相談支援センターは、障害の有無に関わらず、生活に困りごとのある方の話に耳を傾け、悩み事の整理と解決方法の提案、協力者との連携支援をサービスとして取り組んでいる。ひきこもりや不登校の相談が増えており、福祉課等と連携して解決の糸口を探っている。一つのケースを他機関と丁寧と一緒に取り組むことで、互いに連携のイメージを共有し、当事者を囲んだ信頼関係が構築できている。そこから、現場レベルで率直に相談できる場（関係者連絡会）をつくっていくことにつながり、市内の福祉力向上に寄与している。

相談支援事業所はんどは、希望の郷及びにじいろ利用者の計画相談を対応し、やすらぎからのケースを引き継いで対応件数を増やしている。児童期の保護者や連絡の取りにくい家族へ安心して相談できる関係づくりができるよう、時間をかけて対応している。

②相談状況

- ・別紙参照

2. 事業の評価

(1) 幅広い相談内容に対応できる事業所

①手帳や診断名が出ていない方も含めたワンストップできる相談窓口の確立

様々なケースを関係機関の方と共に支援する中で、福祉や医療関係の方からは、やすらぎは認知されており、担当者への相談が増えている。教育関係にもケースを通じて、相談や連携の場面が増えており、教育委員会や総合教育センターとは日常的なやりとりができるようになった。広報等の情報発信は十分に組み立てていないが、ケースを通じて、共に考え支援をすることが相互理解に有効であると感じており、一つ一つのケースを大切に関係機関とのつながりを広げたいと考えている。

②さまざまな相談に対応できる職員の資質向上、チーム支援の確立

職員の資質向上のための研修は行っていない。日々の現場での支援（関係機関との連携）と情報共有、意見交換が職員の意識向上から資質向上につながっている。直接関わりがなくても、共に支援を考えることから、自分のこととして利用者を意識する仕事の流れが確立されており、事業所としての一体感をもって業務遂行している。

(2) 必要な支援やサービスの具体化

①年齢に関係なく、その人に合った活動や経験できる場の創設

平成 28 年度は、具体的な活動の場の創設はできていない。サービスの組み合わせやその人への関わりから、その人の望む生活の場を確保することはできている。ひきこもり等で出かけ先や居場所のない方と粘り強く関わりをもち、その人の好きなことをして過ごすことで、外での活動のきっかけをつくることができた。

②ニーズ毎に課題整理・課題解決できる連絡会等の設置と定着

平成 28 年度は、短期入所等の緊急時の受け入れを検討する「あんしん暮らし支援連絡会」とひきこもりや不登校の支援を検討する「ひきこもり支援連絡会」の設置ができた。平成 29 年度には、すでに設置している「相談支援連絡会」「就 B 連絡会」「高齢・障がい者支援連絡会」「中高連携支援連絡会」と合わせて、加西市障害者自立支援協議会を設置する。

(3) 普及啓発事業

・みんなの福祉フェスタ

毎年、3 月に実施している当事者参加型の障害者福祉普及啓発のイベント。歌やダンス、楽器演奏などを披露するステージパフォーマンス、趣味の活動を発表する作品展、テーマに沿って自分の思いを発表する討論会等の発表形式のイベントや福祉関係事業所等のバザー、防災について楽しく学ぶワークショップ、障害疑似体験のコーナー、メイクアップ体験のコーナー、兵庫県盲導犬協会のコーナー等の体験型のイベントを準備し、多くの方に参加いただいた。「また来年必ずここで会いましょう」と当事者のメッセージで締めくくり、年に一度多くの当事者が楽しんで参加できるイベントとなってきている。

(4) 社会参加支援事業

・就職者の余暇活動

平成 28 年度から、「つながれ！アクション交流事業」として取り組んでいる。一人で外出等が難しい就職者を中心に定期的に外出イベントを企画している。ボーリングや映画鑑賞、日帰り温泉旅行、カラオケを仲間と一緒に楽しんだ。

3. 次年度へ向けて

平成 29 年度から、加西市障がい者（児）相談支援センターやすらぎが「加西市基幹相談支援センターやすらぎ」に名称変更になる。これまでの取り組みを継続していく中、少しずつ着実にステップアップできるよう、成果の見通しをもった事業計画を立てる。

- ・日々の支援を通して、地域のニーズを把握し、地域に必要なサービスや支援について、法人全体で共有する。
- ・日々の実践を関係機関と共に取り組む、成果を活用した支援のしくみをつくる。
- ・報告・連絡・相談といった業務における基本を徹底し、明るい中にも礼儀のある活気ある職場をつくる。
- ・加西市自立支援協議会の運営を通して、関係機関との連携強化。
- ・みんなの福祉フェスタを通じた関係機関との協働関係の充実と当事者の社会参加の促進。

平成28年度 加西市障がい者（児）相談支援センター事業報告資料

1 相談件数について

(1) 相談件数の推移

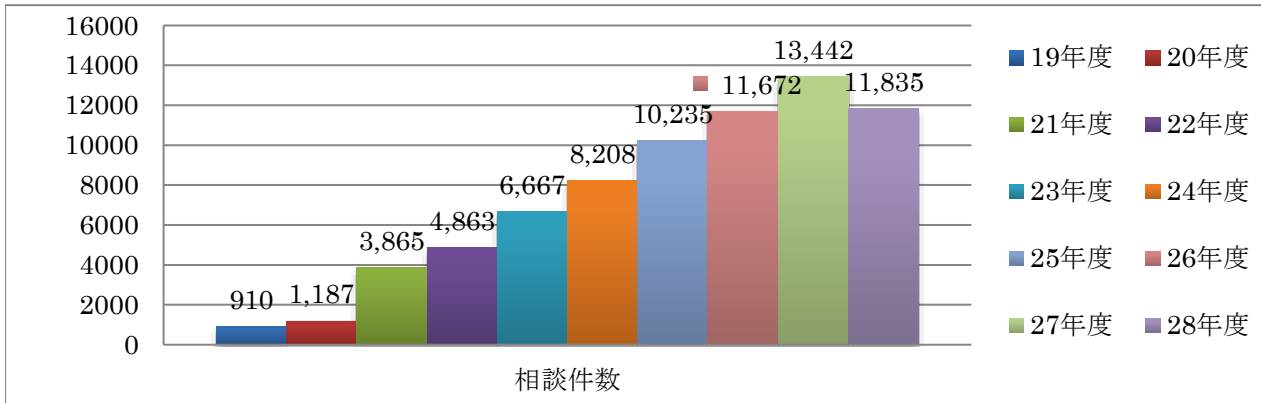
平成19年の2月から相談支援事業が開始され、下記グラフのとおり、年々相談件数は増加していたが、平成28年度においては11,835件で高止まりした感がある。職員の対応できる件数が1,000件前後ではないかと推測される。

相談件数について（延件数）

単位：件

項目	件数									
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28年度
相談件数	910	1,187	3,865	4,863	6,667	8,208	10,235	11,672	13,442	11,835

(件)



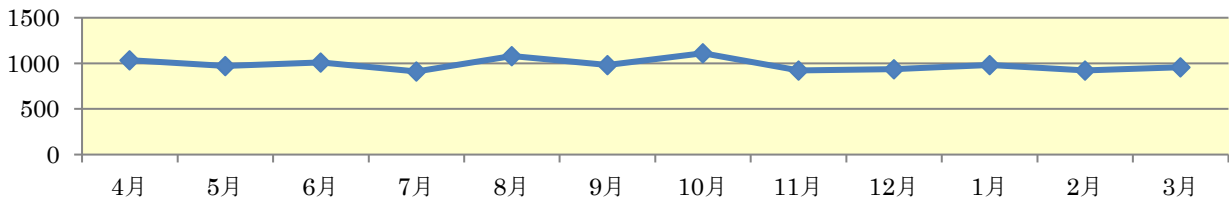
(2) 月別相談件数の状況

月別相談件数（28年度）

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,036	970	1,011	911	1,082	981	1,111	924	938	983	924	959

(件)



(3) 相談延人数の内訳

三障害では「精神」が530人、「知的」が519人、「身体」が305人と精神が一番多く、次いで知的、身体の内訳となっている。昨年度は、児童が150人で30%増、成人が1,264人で約13%増になっている。全体では約15%増となっている。

延人数について

単位：人

項目	延人数	身体障害	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	その他
障害児	195	12	9	102	2	53	0	17
障害者	1,426	293	34	417	528	29	5	120
計	1,621	305	43	519	530	82	5	137

2 個別の相談件数について

(1) 相談方法別件数の推移

全体的に件数が減っている中、来所相談は微減、同行、電子メールでの相談は増加している。

相談方法（延件数）

単位：件

項目	件数									
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28年度
訪問	118	181	247	413	511	706	1,200	1,521	1,697	1,391
来所相談	267	234	343	418	501	595	923	1,537	1,673	1,626
同行			38	55	61	90	117	166	350	393
電話相談	467	667	848	720	1,495	1,619	4,052	5,213	7,271	5,885
電子メール	12	99	76	162	207	262	356	782	679	952
FAX	0	0	0	0	0	0	36	47	45	35
個別支援会議	39	41	56	55	106	101	163	155	148	132
関係機関			2,056	2,739	3,670	4,802	3,357	2,225	1,538	1,352
その他	0	10	201	301	116	33	31	26	41	69
合計	864	1,191	3,865	4,863	6,667	8,208	10,235	11,672	13,442	11,835

(2) 相談内容別件数（障害別）

特に就労に関する内容が多く、次いで在宅サービス・日中活動となっており、生活していくための金銭確保

と日中の行き場を求める相談が多くあり、それに必要な事業所などの連絡調整を実施していることが数値の傾

向からみてとれる内訳となっている。

相談内容（延件数）

単位：件

項目	件数									合計
	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他		
在宅サービス	164	12	357	122	21	0	0	0	676	
施設入所	26	1	46	8	16	0	0	0	97	
日中活動	43	2	319	146	107	0	0	25	642	
就労	247	0	716	862	94	27	25	102	2,073	
医療	82	2	185	330	6	0	0	24	629	
不安の解消	75	3	709	301	30	0	1	58	1,177	
保育・教育	17	0	30	0	9	0	0	29	85	
年金・保険	32	0	180	104	30	0	0	7	353	
人権擁護	34	0	21	2	0	0	0	0	57	
財産	6	0	149	175	0	0	0	8	338	
社参・余暇	42	3	83	48	11	0	0	19	206	
介護・住宅	65	0	4	1	0	0	0	0	70	
諸制度	85	2	140	145	13	0	0	19	404	
家族・人間関係	19	0	139	173	23	0	3	29	386	
連絡調整	476	38	1,246	1,056	165	0	3	325	3,309	
生活保護	7	0	22	19	0	0	0	0	48	
手話・要約	9	0	0	0	0	0	0	0	9	
その他	66	2	143	165	20	0	1	23	420	
計画相談	117	29	375	255	60	0	0	20	856	
合計	1,612	94	4,864	3,912	605	27	33	688	11,835	

3 地域ネットワーク及び啓発事業について

(1) 地域ネットワーク構築

① 北播磨地域自立支援協議会

実施年月日	検討内容
H28. 6. 24	【運営会議】 事業報告等 全体会について 今後について
H28. 10. 28	【運営会議】 各部会から今年度の中間事業報告 後期講演会についての協議
H29. 2. 7	【運営会議】 各部会から今年度の事業報告 プロジェクト会議報告と提案について 全体会についての協議
H28. 7. 22	【全体会】 講演『障害者雇用 手探り奮闘記』 講師：東光機材株式会社 取締役製造部長 藤田高弘氏
H29. 3. 18	【全体会】 各部会からの事業報告 研修会『世界に羽ばたくバタフライマダム』 講師：別所キミエ氏

② 相談支援部会

実施年月日	検討内容
H28. 4. 12	・平成 28 年度相談支援部会事業計画（案）の検討 ・情報交換、近況報告 各市町の自立支援協議会立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について
H28. 6. 14	・運営会議 全体会（前期）について 研修会の内容など ・情報交換、近況報告 ・高齢障がい者への支援や介護保険との連携について
H28. 10. 11	・運営会議・全体会（後期）について 研修会の内容など ・来年度の北播磨自立支援協議会や相談支援部会について ・情報交換、近況報告 各市町における自立支援協議会の立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について
H28. 12. 13	・後期研修会の内容について ・平成 29 年度の北播磨自立支援協議会や相談支援部会について ・情報交換、近況報告 各市町における自立支援協議会の立ち上げ状況や計画相談の進捗状況について
H29. 2. 14	・就労アセスメントについて ・全体会（後期）研修内容について ・来年度の部会について ・情報交換、近況報告

③ 就労支援部会

実施年月日	検討内容
H28. 6. 28	【全体会】 ・労働行政の状況・支援機関の情報交換・制度の情報提供
H29. 1. 31	【全体会】 ・労働行政の状況・支援機関の情報交換・制度の情報提供
H28. 9. 27	【職場適応援助者連絡会】 ・主任職場定着支援担当者の取り組み報告 ・ジョブコーチ支援からの引き継ぎ方法について

④ 発達支援部会

実施年月日	検討内容
H28. 7. 5	講義「ライフステージを通じた保護者支援～子育ての想いに寄り添い、関わるために～」 講師兵庫教育大学准教授 嶋崎まゆみ氏 グループ討議「ライフステージを通じた保護者支援の現状と課題を共有する」
H28. 2. 8	テーマ「保護者支援と協働体制の現状と課題」 講師兵庫教育大学准教授 嶋崎まゆみ氏 実践発表① 「保護者支援と協働体制の現状と課題」 加古川市教育委員会 真鍋裕美氏 実践発表② 「連携・協働を通して、保護者を支え、子どもの成長をつなぐ発達支援」 加西市立総合教育センター 段畑美保氏 実践発表③ 「保護者支援」 ペアレントメンター 大澤尚之氏 シンポジウム「保護者支援と協働体制の現状と課題」 コーディネーター 播磨東教育事務所 村上球男氏 指導助言「保護者支援と協働体制の構築に向けて」 嶋崎まゆみ氏

⑤ 加西市障害者就業・生活支援ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
H28. 9. 15	・事例報告 ・グループディスカッション ・グループ発表、意見交換

⑥ 北播磨精神障害者地域移行・地域定着推進連絡会議

実施年月日	内容
H29. 3. 21	①管内の長期入院者の状況について ②長期入院患者地域移行実践報告 ③地域移行・地域定着の個別給付の状況 ④精神科入院患者退院支援における連携状況について ⑤精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について ⑥継続支援チームについて

⑦ 相談支援の会

実施年月日	内容
H28. 4. 27	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 5. 25	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 6. 29	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 7. 27	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 8. 31	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 9. 28	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 10. 26	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 11. 30	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H28. 12. 26	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H29. 1. 30	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H29. 2. 20	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。
H29. 3. 24	サービス更新対象者の確認。計画作成等に関する意見交換。

※ラヴィかさい相談支援事業所、ナーシングピア加西相談支援事業所、医療福祉センターきずな相談支援事業所、ワークらんど加西相談支援事業所、地域生活支援事業所はんど、地域福祉課で構成。

⑧就 B の会

実施年月日	内容
H28. 6. 21	内職共同受注について、施設外作業について、職場実習について、今後について

※市内就労継続支援 B 型事業所（エル・ファーロ、こはる日和、善防園、ワークらんど加西・スリーブ）と相談支援センターやすらぎで構成。

⑨加西市中高連携支援連絡会

実施年月日	内容
H28. 6. 28	連絡会設置の目的、趣旨説明、担当者紹介、各校の現状について
H28. 12. 16	中高連携における各校の現状について、来年度に向けての意見交換、情報交換

※関係高等学校、加西特別支援学校、市内中学校、ひょうご発達障害者支援センタークローバー、教育委員会、地域福祉課、相談支援センターやすらぎで構成。

⑩ひきこもり支援連絡会

実施年月日	内容
H28. 4. 18	ケース検討、意見交換
H28. 6. 1	ケース検討、意見交換
H28. 6. 29	ケース検討、意見交換
H28. 7. 29	ケース検討、意見交換
H28. 8. 30	ケース検討、意見交換
H28. 9. 28	ケース検討、意見交換
H28. 10. 24	ケース検討、意見交換
H28. 11. 30	ケース検討、意見交換
H28. 12. 19	ケース検討、意見交換

※地域福祉課、家庭児童支援係、産業振興課、相談支援センターやすらぎで構成。

⑪高齢・障がい者支援連絡会

実施年月日	内容
H28. 4. 20	本連絡会の目的、趣旨説明及び今後の進行などについて検討、情報交換
H28. 5. 27	今年度の研修会について、各担当課からの報告・連絡等
H28. 6. 17	今年度の研修会について、各担当課からの報告・連絡等
H28. 7. 20	今年度の研修会について、各担当課からの報告・連絡等
H28. 8. 24	今年度の研修会について、各担当課からの報告・連絡等
H28. 9. 12	今年度の研修会について、各担当課からの報告・連絡等
H28. 9. 23	若年性認知症研修会～若年性認知症の発症から支援まで～ 各相談窓口や役割について説明、当事者発表、意見交換会・交流会、まとめ 講師：ひょうご若年性認知症生活支援相談センター清水美代子氏
H28. 10. 17	研修会の振り返り、各担当課からの報告・連絡等
H28. 11. 14	若年性認知症支援担当者研修について、各担当課からの報告・連絡等
H28. 12. 5	各担当課からのケース報告・連絡など
H29. 1. 16	各担当課からのケース報告・連絡など

※地域福祉課、長寿介護課、地域包括支援センター、相談支援センターやすらぎで構成。

⑫どうなってるの、これからどうする、緊急時などの短期入所等利用について（意見交換会）

あんしん暮らし支援連絡会準備会

実施年月日	内容
H28. 9. 27	現状の課題について、今後の連携についての具体的な方法、今後について
H28. 12. 20	連絡会について、サービス利用状況情報共有手段について、情報交換・意見交換

※みずほの家、善防園、希望の郷、ワークらんど加西、各相談支援事業所、地域福祉課、相談支援センターやすらぎで構成。

⑬みんなの福祉フェスタ実行委員会

実施年月日	内容
H28. 5. 11	前回フェスタの振り返り
H28. 7. 21	企画会議 イベント趣旨、内容について
H28. 8. 30	全体会議 イベント趣旨、内容について
H28. 9. 8	企画会議 イベント内容について
H28. 10. 24	全体会議 企画会議で検討した内容について意見交換
H28. 11. 8	企画会議 イベント内容、今後の進め方について
H29. 2. 27	全体会議 イベント内容について、各コーナーについて、役割分担
H29. 3. 11	前日準備
H28. 3. 12	イベント当日

※市内福祉サービス提供事業所（医療福祉センターきずな、希望の郷、さくらの家、善防園、ナーシングピア加西、ワークらんど加西・こはる日和）、障害福祉に関心のある団体（すみれの会、ふきのとう）と特別支援学校、市役所地域福祉課、相談支援センターやすらぎで構成。

(2) 啓発事業

① 社会参加支援事業の実施

実施年月日	テーマ	内容	開催場所	参加者
H28. 5. 29	余暇活動	外出（ボウリング）	ニッケパークボウル	10人
H28. 9. 4	余暇活動	映画鑑賞	アースシネマズ姫路	9人
H28. 12. 4	余暇活動	外出（日帰り温泉）	せせらぎの湯	10人
H29. 1. 22	余暇活動	外出（カラオケ）	エリーゼ	10人

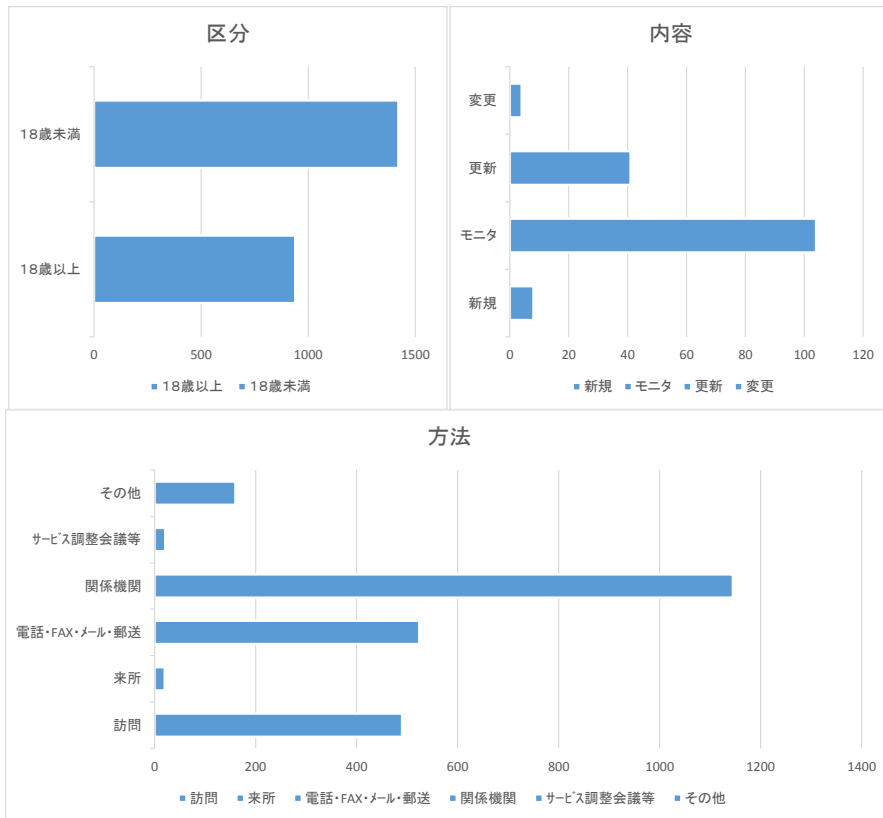
② 講演会等

実施年月日	研修名	内容	対象	参加者
H28. 4. 22	加西特別支援学校PTA研修	障がい福祉サービスについて	支援学校保護者	50人
H28. 5. 18	加西特別支援学校職員研修	障がい福祉サービスについて	支援学校教職員	70人
H28. 8. 4	教育委員会研修	障がい福祉サービス及び支援の連携	加西市教育委員会職員	30人
H28. 8. 20	発達支援フォーラム	相談支援センターの役割と連携	福祉関係者	100人
H28. 9. 15	加西特別支援学校PTA研修	相談支援センターの役割と連携	支援学校保護者	50人
H28. 11. 2	若年性認知症支援担当者研修（加西）	当事者発表、支援経過説明	高齢者支援施設及び障がい者支援施設職員	100人
H28. 11. 17	加西しあわせ研修会	相談支援センターの役割と連携	福祉関係者及び当事者	50人
H29. 1. 21	福中播磨育成会研修	親亡き後の支援について	中播磨育成会	60人
H29. 1. 25	若年性認知症支援担当者研修（北播磨）	相談支援センターの役割と連携	高齢者支援施設及び障がい者支援施設職員	100人
H29. 3. 1	親むぎの会研修	相談支援センターの役割と連携	親むぎの会会員	50人
H29. 3. 12	みんなの福祉フェスタ2017	討論会、みんなのメッセージ発表 等	地域交流センター	380人

平成28年度 はんど 相談実績集計

													(実人数)
計画相談内訳	H28.4	H28.5	H28.6	H28.7	H28.8	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3	合計
新規	6	10	13	16	13	18	12	11	9	19	11	19	157
モニタ	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	1	2	8
更新	5	8	12	12	10	12	4	7	7	17	7	3	104
変更	0	2	1	3	2	6	5	3	1	2	2	14	41
	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	4

													(延人数)
区分	H28.4	H28.5	H28.6	H28.7	H28.8	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3	合計
18歳以上	58	109	176	145	222	246	219	231	207	266	242	239	2360
18歳未満	29	40	94	73	141	145	78	69	65	98	51	56	939
	29	69	82	72	81	101	141	162	142	168	191	183	1421
区域	58	109	176	145	222	246	219	231	207	266	242	239	2360
加西市	19	27	33	26	62	59	22	24	37	60	32	34	435
加東市	0	2	5	0	0	2	4	2	2	1	0	1	19
多可町	0	1	1	0	3	14	5	6	4	0	0	0	34
西脇市	0	0	1	1	4	2	0	0	0	0	0	0	8
三木市	29	69	85	76	102	110	141	162	142	168	191	183	1458
小野市	3	2	0	0	0	0	15	7	4	0	0	1	32
宝塚市	0	0	2	3	4	0	0	0	0	16	4	0	29
たつの市	0	0	0	0	4	5	1	0	0	0	0	0	10
伊丹市	0	0	9	7	0	0	0	0	0	0	0	0	16
高砂市	0	0	1	0	9	2	1	2	0	3	6	1	25
明石市	0	0	3	0	1	10	4	1	0	0	0	0	19
姫路市	0	1	12	22	24	11	2	6	2	10	4	2	96
豊岡市	5	5	8	4	1	6	5	1	0	0	1	11	47
加古川市	0	0	1	0	3	8	12	6	2	0	0	1	33
神河町	0	0	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	12
猪名川町	0	0	1	0	1	4	4	0	0	0	0	0	10
神戸市	0	0	0	1	4	11	2	1	6	5	0	2	32
西宮市	0	0	0	0	0	1	1	13	8	3	4	3	33
その他	2	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	7
-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
方法	58	109	176	145	222	246	219	231	207	266	242	239	2360
訪問	20	43	54	22	31	35	38	45	55	53	40	54	490
来所	1	1	3	0	3	3	1	1	2	4	1	0	20
電話・FAX・メール・郵送	5	16	20	37	60	79	55	53	42	61	52	44	524
関係機関	26	39	85	68	111	108	110	120	97	127	136	118	1145
サービス調整会議等	0	0	1	2	4	1	3	1	2	2	1	4	21
その他	6	10	13	16	13	20	12	11	9	19	12	19	160



3 共同生活援助事業所「なごみ」「くつろぎ」

《今年度の目標》

1. 地域生活支援

- (1) 個別支援計画に基づいてニーズの充足及び QOL の向上を図る。
- (2) 就労と地域生活の両立に向けた支援。
- (3) 地域の行事や自治会活動に積極的に参加する。

2. 地域移行支援

- (1) 住環境の整備及び利用者選定と支援体制の確立
- (2) 地域で暮らしていく上でのルール設定及び役割分担およびシステム化を通して自立生活を支援する。

《事業の内容》

1－(1) 日常生活能力の維持向上と地域生活に必要なスキルの獲得

- ・利用者からの意見、要望を聴くことを重視し、利用者個々が地域生活を担っていけるように個別支援計画に基づいて支援する。

1－(2) 自立に向けた相談援助及び、日常生活支援

- ・仕事と家事の両立を念頭において、利用者間で話し合いながら個々がよりよい地域生活を営めるよう支援する。

1－(3) 自治会行事（地域清掃、ソフトボール大会見学、消防訓練等）への参加を通して、地域住民との交流を図る。

《事業の状況》

1－(1) 各入居者ともに健康を第一に、仕事と余暇のバランスを考慮しながら、個々の個別支援計画を遂行する。個々のニーズに沿って月間スケジュールを立案しニーズの充足に努める。

医療面への配慮が必要な入居者の食事支援において、世話人が対応しやすいように白ご飯の量を写真提示し、支援の標準化を図る。自力で盛ることが可能な入居者については自ら写真を見て盛ってもらう。スキルアップという面では、金銭の授受等において入居者が戸惑っている姿を見ると、どうしても職員が手を出してしまう傾向にあり課題が残る。

1－(2) 企業に勤めている入居者には、夏場の熱中症対策として、水筒をサイズアップする等普段より氷・お茶を多めに摂れる様に留意する。同時に職場の現場責任者からは、職場での様子について聞き取りを行う等、猛暑での過ごし方について見直しを働きかける。

冬場のアカギレ対策として、朝晩の軟膏塗布や季節毎による衣類調整等、働きやすい環境を維持できるよう配慮する。

繁忙期に伴う残業期間中の家事当番については、みんなで負担軽減を協議し調整する。

THREE-P の新規職場体験の際は、各自不安が膨らむことがあったが、その都度、本人の訴えに傾聴し、不安要因を明らかにすることで欠勤なく継続して出勤できた。不安症の入居者については、職場での不安要素は持ち帰らずに、その場で職場スタッフに聞いて確認することが一番の近道であることを伝え職場スタッフとの連携強化に努める。

1 - (3) 4月に自治会のソフトボール大会があり、そこに入居者に応援に来てもらうなど、賑やかしく参加する。

5月に自治会の20周年イベントとして、「第20回カナダ村フェスティバル」が開催される。自治会の地域清掃の後BBQ大会があり、和気あいあいとした雰囲気の中で住人の方々と共に有意義なひとときを過ごせた。

12月になごみで日中避難訓練を実施する。自治会には事前に回覧で案内を配布し、近隣の方々には開始前にお声かけをさせてもらった上で訓練を実施する。

2 - (1) ・ (2) 「くつろぎ」については、ハード面の整備はほぼ確立できたものの、世話人等の人材確保が不十分なため、開設が先延ばしになっている。

《目標に対しての評価・反省》

1 - (1) 日常生活能力の維持向上と地域生活に必要なスキルの獲得

普段の地域生活における習慣的な取り組みとしては、入居者同士の格差はあるが、役割分担を通して担うことができた。また入居者からの意見・要望について、その都度、向き合っ傾聴し遂行することが、地域生活における意欲向上に繋がっているように考える。

スキルアップの面では、普段から個別支援計画に照らし合わせて個々の特性に沿った支援や、ストレングスの上手な活用等も含め、段階を踏んだ地道な支援が求められる。

1 - (2) 仕事と家事の両立については、引き続き、日々の仕事の疲労度に合わせて個々の役割を調整・配慮することで両立出来ている。また余暇とのバランスについては、個々のニーズの多様化が顕著になってきていることから、グループ活動若しくは個別活動等プログラムの細分化を図り、常に入居者の立場に立ってサービス提供に心がける必要がある。

2 - (1) ・ (2) 人材確保を優先させると共に、地域移行が可能な利用者の選定を慎重に行い、「なごみ」も含めた地域生活を支えていく上での支援体制を構築する。

《次年度への課題・留意点》

入居者のニーズの多様化に伴い、個々の特性や用途に沿った移動支援の導入も含めて、意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立ってサービスの充実を図る。そして地域との結びつきを重視し、関係市町村、他の障害福祉サービス事業者、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

男性利用者で構成する「くつろぎ」については、平成29年度の「大空」開設に伴って、「なごみ」も含めた新たな地域生活の拠点を基盤とし、新たなマンパワーと支援体制を駆使し、すみやかに構築することが求められる。

4 児童発達支援事業所なゆた

①事業の実施状況

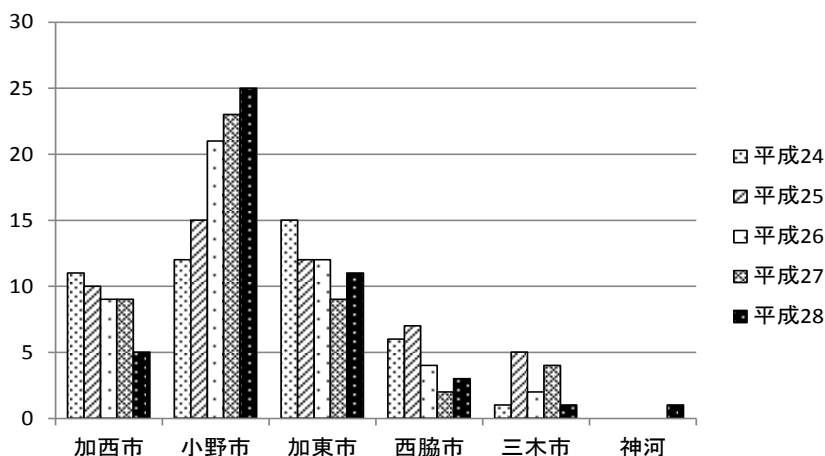
平成24年3月15日に児童発達支援事業所なゆたが開所され、平成29年3月で開所から5年が経過した。本事業所では開所から今まで北播磨圏域(加西市、小野市、加東市、三木市、西脇市、多可町)を利用圏域として設定していたが、平成28年度はいくつかの条件を加味した上で神河町の児童を1名受け入れた。利用希望者には通所受給者証を取得してもらった上で契約をおこない、児童福祉法で定められた個別支援計画を作成してその計画を基に支援をおこなっている。利用者は主に自閉スペクトラム症、注意欠如/多動症、知的発達症の児童となっており、利用経路としては保育園、幼稚園、各市の福祉課、保健センター、医師、相談支援事業所の相談支援専門員からの紹介が主となっている。利用できる対象として就学までとなっている。講師派遣及び保育所等訪問(加算は不可)については以下の表に示す。

前年度からの変更点の1つとして土曜日の受け入れを開始したことがあげられる。以前より保護者からの要望はきこえており、事業所の収益増加という課題と兼ねて考慮した結果平成28年10月から実施することとなった。

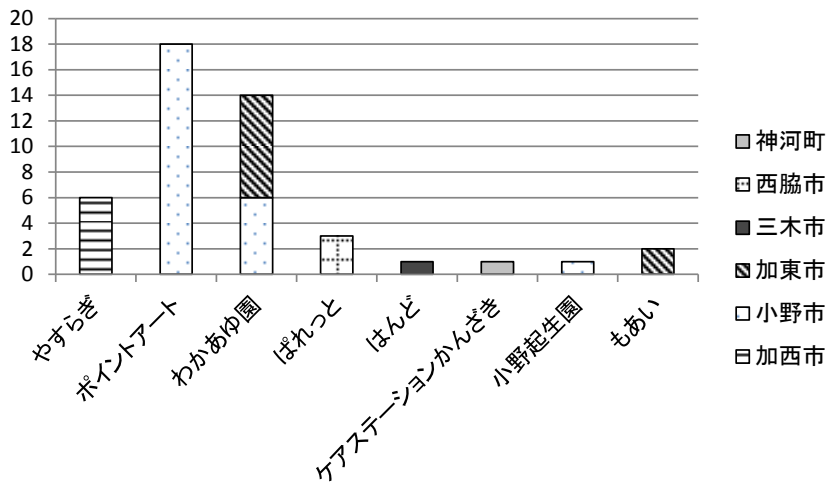
年間延べ利用人数

	H28年			
	延べ利用数	最大延べ利用枠数	稼働率	延べ欠席数
4月	126	190(19日)	66%	13
5月	136	190(19日)	72%	18
6月	169	220(22日)	77%	7
7月	154	200(20日)	77%	18
8月	158	210(21日)	75%	28
9月	152	210(21日)	72%	28
10月	158	210(21日)	75%	38
11月	164	210(21日)	78%	37
12月	162	200(20日)	80%	36
1月	178	200(20日)	89%	32
2月	198	210(21日)	94%	23
3月	141	160(16日)	88%	27
合計	1896人	241日	79%	305人
27年度	1777人	234日	76%	261人

利用圏域各市町契約数



計画相談担当事業所



土曜日療育実施状況

10月(1日実施)	11月(1日実施)	12月(1日実施)	1月(1日実施)	2月(1日実施)	3月(3日実施)	計
11人	11人	11人	9人	12人	25人	79人

保育所等訪問(加算は不可)・講師派遣

依頼は教育委員会、校長、特別支援教育コーディネーター、園長、担任教員・保育士、加配保育士、から。

実施日	学校等	実施日	学校等
H28.4.5	市場小学校	H28.12.13	來住小学校
H28.4.13	下東条小学校	H29.1.19	福田幼稚園
H28.5.16	北辰保育園	H29.1.25	東条小学校
H28.7.15	西脇幼稚園	H29.2.2	下東条西保育所
H28.11.4	ひまわり保育所	H29.3.2	清心こども園

②事業の評価(稼働率等の達成度に関しては年間延べ利用人数の表を参照)

児童発達支援を評価するとなると、利用児童の成長と保護者の満足度を基準にするべきである。児童の成長に関しては40人以上の児童の各課題の正答率の向上推移やコミュニケーションスキルのエピソード等をここにまとめて記すのは困難なため記さない。保護者の満足度に関しては、参観の際にアンケートを実施しており、5段階評価をしていただいております、全ての保護者から『大変満足』もしくは『満足』の評価をいただいている。

収益に関して、延べ利用合計数が前年度から119名増であること、平成26年度から継続的に利用数が増えている事は好ましい結果である。

臨床の形態に関しては、平成26年度から継続的に職員の交替が繰り返される中平成28年度も産休・育休による職員の交替があった。しかし、5年目で療育のフロントが固まってきた事と、新たに加わった心理士との療育の再構築によって本事業所でベースに置いてきた太田 stage のみに囚われない折衷的な形に少しずつ変化していることは重要な点であると考えます。

しばらく新規利用のなかった加西市に関しては、平成 28 年度中盤辺りから加西市民病院の久保田医師と加西市療育室の中安先生を經由して見学に来られる方が増え、利用に繋がっている。今後も継続してこの繋がりを大切にしていきたい。

③次年度へ向けて

次年度へ向けて作成した事業計画書に記した事業方針をもとに重点目標を目指した療育を実施していく。今年度見られた課題として『発達段階的に集団療育参加が妥当であるが集団場面への参加維持が困難な児童への対応』があげられる。トークンエコノミーシステム、即時強化、カームスペース、専属職員の配置等を用いる事によって対処してきたが、完全に対応しきれたとは言い難い。平成 29 年度は上記のようなシステム面からの支援のみではなく、児童の個々の感覚的特性の把握を前提とし、限られた職員配置の中でヒューリスティクスかつ児童の特性に寄り添った対処の形を 4 人で模索していく。

職員 1 人 1 人のスキルアップと臨床力の向上、よりよいサービス提供の模索、事業所の周知、他機関との連携、収益の向上等は初年度から変わることなく職員全員で適宜対応していく。

平成 29 年度見込み

	H29年(見込み)			
	延べ利用数	最大延べ利用枠数	稼働率	延べ欠席数
4月	158	210(21日)	75%	23
5月	158	210(21日)	75%	23
6月	158	230(23日)	69%	23
7月	158	210(21日)	75%	23
8月	158	220(22日)	72%	23
9月	158	220(22日)	72%	23
10月	158	220(22日)	72%	23
11月	158	210(21日)	75%	23
12月	158	210(21日)	75%	23
1月	158	200(20日)	79%	23
2月	158	200(20日)	79%	23
3月	148	150(15日)	99%	23
合計	1886	249日	76%	276
・延べ利用数はH26年4月～H28年9月の平均にプラス10(月1回の土曜日開所分)した数値 ・3月は開所日が少ないためプラス10をせずに試算 延べ欠席数は、H26年4月～H29年3月の平均				

5 就労継続支援 B 型事業 THREE-P

1. 事業の状況

○ 運営面

1) 利用状況・稼働率について

平成 28 年 4 月より利用者数 8 名で開始（希望の郷 3 名・なごみ 3 名・加西市 1 名・加古川市 1 名）。平成 28 年 7 月に 1 名・同 10 月に 1 名利用を開始。平成 29 年 1 月に 1 名利用終了、同年 2 月 1 名利用開始、1 名利用再開となり、年度終了段階で利用者数 11 名（希望の郷 3 名・なごみ 3 名・加西市 4 名・加古川市 1 名）となる。年度途中から利用者数が定員と同数になり、年間平均稼働率は約 90%。

平均値	登録者数	営業日数	延人数	稼働率	前年増減
平成 26 年度	6.0	20	133	64.1%	-
平成 27 年度	8.6	21	163	77.0%	12.9 P 増
平成 28 年度	9.4	22	197	89.5%	12.5 P 増

※平成 26 年度は半年間の数字

2) 収支について

前年度の反省を踏まえ、事業所の収支概算を本体収支・委託収支・作業収支に整理した。合わせて利用者の工賃支払規定を見直し、作業収支内での支払方法へと変更した。また月毎の収支を把握しながら事業を進めていった。

3) 加算について

福祉専門職配置加算（Ⅲ）を平成 28 年 5 月より申請していたが、常勤換算数の上で、満たさない形となったため、平成 28 年 9 月終了。

4) 人材について

平成 28 年 4 月よりスタッフ（4 時間パート）1 名入職。同スタッフが平成 28 年 12 月末をもって離職。補充として平成 29 年 1 月よりパートスタッフ（7 時間）1 名入職。

平成 28 年 3 月末をもってスタッフ（正規）離職。

5) 研修について

年間 4 件の外部研修に参加。参加した研修を事業所内にフィードバックするための内部研修を合わせて行った。（もう 1 件予定していたが、職員減に伴い中止した）

①外部研修

年月	研修名
平成 28 年 6 月	公益財団法人ヤマト福祉財団ステップアップセミナー ～利用者の働く力を伸ばす現場づくり～
平成 28 年 7 月	平成 28 年度兵庫県サービス管理責任者等研修合同講義
平成 28 年 8 月	平成 28 年度兵庫県サービス管理責任者等研修共通講義
平成 28 年 10 月	平成 28 年度兵庫県サービス管理責任者等研修分野別講義

②内部研修

年月	研修名
平成 28 年 4 月	若年性認知症支援研修
平成 28 年 9 月	公益財団法人ヤマト福祉財団ステップアップセミナー ～利用者の働く力を伸ばす現場づくり～
平成 29 年 1 月	平成 28 年度兵庫県サービス管理責任者等研修

6) その他

平成 28 年 8 月に延べ 7 日間、中学生のボランティア 1 名を受け入れた。法人内の事業所に協力を依頼し、福祉の事業所を見学して回る機会を持った。また平成 28 年 6 月に延べ 10 日間、加西市立特別支援学校の実習 1 名を受け入れた。

○ 事業面

1) 作業について

施設外就労の候補 2 社の体験を実施。作業体験を踏まえた結果従事する上で難しい点（企業の期待と実情が合わない、現在の利用者のニーズに合わない等）が見られ、加えて、作業場を分散することによる職員数などを総合的に判断し行わないこととした。

作業の見直しについては、単価や受注作業の安定した供給などを考慮し、新たに 2 社の作業を導入した。導入後、受け入れている作業の整理を行い、従来の作業の内 1 社を中断、もう 1 社については縮小させる方向で調整。安定供給が期待できる作業に集中し、より効率を上げられるように取り組んだ結果、収益を上げることができた。

2) 作業工賃について

事業計画に挙げた平均工賃 12,000 円を達成すべく、上述の作業検討や効率化を実施した結果、平均工賃約 12,553 円にすることができた。

	作業収入	平均工賃	前年増減
平成 26 年度	456,296	9,872	-
平成 27 年度	1,275,210	10,605	733
平成 28 年度	1,724,111	12,553	1,895

※平成 26 年度は半年間の数字

○ 新事業検討

1) 法人内検討会議

月に 1~2 回のペースで実施。事業の全体像や方向性等について検討。今までの専攻科の形から、新たに法人独自の方向性として、一般高校を卒業する発達障害の方をターゲットにした自立訓練事業を推し進める形となる。合わせて、建物の改修について設計士と協議の上、素案を作成する。

2) 兵庫教育大学井澤教授への協力依頼及び話し合い

平成 28 年 9 月に兵庫教育大学井澤教授へ法人の取り組みについて説明を行う。趣旨に賛同していただき、今後の事業の組み立て及び開始後の評価面等の協力依頼を行う。同年 12 月と翌年 3 月に法人内検討会議に参加していただき、助言をいただく。

3) 研修への参加

平成 28 年 8 月に全国専攻科研究会の研修に参加。内容としては、各専攻科として取り組んでいる事業所の事例発表が主であり、各事業所の取り組みや課題・成果について聞くことができた。

2. 事業の評価

○ 運営面

1) 年間平均稼働率約 90%と安定して稼働させることができた。利用者の利用終了に伴う減収は一時的にあったものの、翌月には利用者が増やすことができた。これまでの利用を希望される方の多くの意見として、「外で体を動かす作業が良い」「作業の時間が 16:00 までなのが良い」という声が多く聞かれ、この 2 点が市内の事業所との差別化を図る大きなポイントとなっている。

2) 収益としては黒字で運営することができ、ある程度自主経営可能な水準にすることができた。事業所の収支を加算から把握し見ていくことで、事業面とは違った事業所の運営の意識を強く意識して取り組めたように思う。

3) 加算の取得条件を把握し可能な加算については随時申請した。平成 28 年度に新たに取得できたのは 1 つ（目標工賃達成指導員配置加算）であったが、その加算収入を見込み新たな人員の配置を検討し、結果収益を減らさずに人員を増やすことにつながった。

4) 離職に伴う採用情報をハローワークに掲示するが、就職希望者からの反応はほとんど無かった。インターネットで同様の求人情報を特に登録せずに簡単にみられる中で、現在の就職希望者の大半がハローワークをあまり利用していない実情が見られた。（3 ヶ月の掲載期間で連絡 1 名のみ）

5) 研修については、外部の研修に参加した際には、内部研修を必ず実施させ、内部研修についても報告・所感等を提出する形態をとった。内容として個別支援計画にかかる研修や工賃向上におけ

る視点等、日々の支援に大きく関わってくる内容の研修を行うことができた。研修内容を活かすという点では、まだまだ実際に活かしていない部分も見られる。

- 6) ボランティアについては、福祉に興味を持つ学生を受け入れることで、今後の担い手育成に向けた意義があると感じた。支援学校の実習受け入れについては、保護者を含めて教員とも話をする中で、卒業後の進路に対しての保護者のニーズとして、卒業後に就労させたい意向が強い印象を受けた。実際に3年時の実習はより就労につながる可能性の高い事業所に集中する傾向にあるとのことであった。しかし利用者のニーズとは少なからず合っていない印象も持った。

○ 事業面

- 1) 作業内容の整理及び効率化を図った結果、作業収入は全体的に向上させることができた。また日々の作業における製造数や収入などを作業ごとのファイルで整理していたものを一元化し、日々収益を「見える化」した。これにより目標までの距離を意識できるようになり意識向上につながったように感じている。しかし企業の状況（繁忙期と閑散期）により大きな差が出る月も見られた。特に施設外就労では冬の時期の落ち込みが大きく、平成29年1月は企業の方針により企業の営業が金曜を定休日とし、春先の土曜に出勤する形に変更された影響もあり、収入が落ちてしまった。
- 2) 夏場には増収しても利用者増員分の工賃になり、工賃額に変化が見られない時期はあったものの全体の作業収入自体は伸びており、平均工賃も向上させることができた。しかし、平均としては上がったが、各月を見ると繁忙期と閑散期の影響により差がるなど安定した工賃支給とはならなかった。季節による変動はある程度仕方がない部分もあるが、閑散期の施設外就労への参加人数や内容調整を含めて、収益安定を図る必要がある。

○ 新事業検討

- 1) 基本的な方針として、一般高等学校を卒業する発達障害をもつ生徒をターゲットに、今後の生活において必要となるスキルや体験を行う中で、その後の就労場面や生活面でつまづかないように、またつまづいたとしても乗り越え方がわかるようなプログラムの構築を考え、2年間の有期限の学校をイメージした事業づくりを検討中。以前にあった専攻科と2年間の有期限の学校という点では同じであるが、あくまで「一般の高校を卒業する」「発達障害」を対象とし、「体験」だけでなく「ライフスキルの習得」「ストレスマネジメント」など、今後の社会生活を送る中で過去の事例を通して発達障害の方がつまづいてきたポイントに対して、学習する場として考えている。
- 2) アウトラインを固めながら、学校への説明等外部に知らせるためのパンフレット作りを行っていく。並行して説明会の為のプレゼン資料・具体的なカリキュラムの作成検討などを行っていく必要がある、この事業を形にしていくため中核となる人材が必要。
- 3) 研修については、事業の方向性や内容はあくまで専攻科の研修であり、多少の違いはあったが、その中でも生徒の変化に対しての評価の仕方やスタッフの姿勢など参考となる内容も多く含まれており、今後の事業検討に活かせるものであった。

② 次年度へ向けて

○ 運営面

- ・ 目標工賃達成加算（Ⅲ）・福祉専門職配置加算（Ⅲ）を申請。必要な申請手続きを遅滞なく行い、増収を図る。

○ 事業面

- ・ 平成28年度の工賃水準を維持できるようにしていく。また利用者が主体的に関わる中で達成していけるよう、作業内容のさらなる効率化等を考えていく。
- ・ 繁忙期や閑散期に工賃に差が出る課題に対して、施設外就労の作業参加人員の季節による調整等を視野に安定供給できるようにしていく。

○ 新事業検討

- ・ 平成29年度については、事業を実施するうえでより細かな内容について内部及び外部と検討し、組み立てていかななくてはならない。その為THREE-Pの事業計画・報告とは別に新規事業に関する計画を立て、平成31年4月の開始に向けて、進めていく。

6 こども発達支援センターにじいろ

(1) 事業の実施状況

【児童発達支援事業】

早期に専門的な療育を実施していくことにより、家庭及び保育所等において落ち着いた生活ができるようになるとともに、学齢期に繋がるような支援を行うことで、学校等においても本人が持っている力が発揮できるようにしていく。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	34	35	39	40	41	45	47	52	53	54	54	54	
延利用者数	128	126	163	150	182	134	155	153	179	172	181	205	1928
利用率	67.4	66.3	74.1	75.0	86.7	74.4	77.5	76.5	94.2	90.5	90.5	97.6	81.0

【放課後等デイサービス事業】

学齢期の児童に対して専門性の高い支援を行っていくことで、成人期の安定した生活に繋げていけるようにしていくことができるように取り組んでいく。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	59	62	63	66	68	68	68	70	70	70	70	71	
延利用者数	199	231	261	243	296	247	228	247	235	221	237	269	3977
利用率	60.4	69.6	69.2	65.8	81.9	72.6	65.4	70.6	67.2	66.7	70.7	71.4	69.3

【保育所等訪問事業】

地域の保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に職員が出向き、地域で生活する発達が気になる児童に対し、本人が安心して集団生活を継続できるように支援者に対して専門的な助言を行う。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	1	1	1	2	3	3	5	7	7	9	10	10	
延利用者数	0	0	0	0	0	6	6	5	7	4	9	3	40

(2) 事業の評価

稼働率については、利用予定者の上限を12月から定員+ α 名に設定することにより、児童発達支援事業は年間を通して80%を超えてきたが、放課後等デイサービスについては70%弱にとどまっている。保育所等訪問事業についても契約者数は増えているものの、それが利用につながっていない状況である。

より効率的な事業の実施について検討する必要があると感じている。

(3) 次年度へ向けて

平成29年度は三木市から事業を受託し3年目となり、受託期間の最終年を迎えることとなるが、次回の公募についてゆたか会が応募するかどうかについては、慎重に検討する必要があると考えている。

その上で、平成29年度事業にどのように取り組んでいくかという方向性を見出していきたい。

7 受託事業関係

(1) 事業の実施状況

【障害者等相談支援コーディネーター事業】

①圏域内の市町間及び圏域間の相談支援体制等の連携・調整

- ・保健・医療・福祉・教育・労働・交通等に関する社会資源を共有する圏域内の市町間及び圏域間の相談支援体制等の連携・調整
- ・県が設置する圏域自立支援協議会、兵庫県障害者自立支援連絡協議会、兵庫県障害者権利擁護センター及び障害児等療育支援事業への参画

②市町相談支援体制の後方支援

- ・市町等の相談支援体制等（地域自立支援協議会・基幹相談支援センター等機能強化事業・成年後見制度利用支援事業・障害者虐待防止対策支援事業等）の構築・運営に必要な助言・指導及び情報提供
- ・市町職員・相談支援従事者・療育従事者等の資質向上を図るための研修事業

③上記のほか、本県の相談支援体制等の構築・充実に資する業務

- ・相談支援従事者初任者研修・現任研修等の内容検討への参画（相談支援従事者指導者養成研修（国研修）への参加を含む）
- ・ひょうご障害者福祉プラン・兵庫県障害福祉計画の改定に当たっての助言・指導
- ・その他、必要と認められる業務

上記の内容について以下の通り事業を実施した。

《件数》

区 分		助言・指導の区分			合 計
		相談支援体制等の構築・運営に必要な助言・指導	相談支援ケースへの対応等に必要な助言・指導	その他	
相談 関係	①指定相談支援事業所従事者	159	30	48	237
	②市町職員 (障害福祉担当課に限る)	25	15	24	64
	③上記以外の相談支援関係者 (例:障害者相談員、民生委員等)	0	0	1	1
④保健・福祉関係者(市町職員含む)		18	3	33	54
⑤教育関係者(市町職員含む)		1	0	0	1
⑥労働関係者		0	0	0	0
⑦企業等		0	0	1	1

⑧障害福祉サービス事業者等	8	13	26	47
⑨その他	8	12	13	33
⑩障害者本人	0	1	91	92
⑪障害者の家族等	0	0	49	49
合 計	219	74	286	579

《相談支援体制等の構築・充実にに向けた独自の取組》

北播磨圏域では、平成29年度中に圏域内すべての市町において自立支援協議会が立ち上がる予定。
 (平成28年度時点では、多可町・西脇市・小野市・三木市に設置済み)
 これに伴い、圏域自立支援協議会の運営方式についても見直しをすることとなり、従来までの圏域内各市町による負担金の拠出による市町共同設置の方式から、北播磨県民局による運営へと変更となる。

各市町の自立支援協議会が設置されることにはなるが、各市町だけでは解決が困難な課題に直面した際、圏域内の課題として取り組まなければならない状況が出てくることが予測されるため、従来の市町間や圏域内相談支援事業所の連携が図れる場の必要性が話し合われた結果、平成29年度からは、圏域自立支援協議会とは別に圏域課題を共有し協議できる会議を設置することとなる。

会議の名称は「北播磨障がい福祉ネットワーク会議」とし、具体的な役割としては、会議内に専門部会として4つの部会「市町部会」「相談支援部会」「就労支援部会」「発達障害支援部会」を設置し、各部会ごとに圏域内の課題を共有したり、市町単独では検討が困難な事例などへの対応を検討することとした。さらに、部会で話し合われた議題については「全体会議」で共有し取りまとめを行っていく。さらに、必要に応じて北播磨障害者（児）地域自立支援協議会への提言を行っていく。

《相談支援体制等の構築・充実にに向けた課題・今後必要となる取組》

計画相談実績について、北播磨圏域の進捗状況は伸びてきているものの達成率としては100%に達していない市町もある現状。また、達成率だけではみえない現状として、相談支援専門員が抱える計画相談数が多くなっていることや、市内相談支援事業所で計画相談が作成できず、他圏域にある相談支援事業所へ作成をってもらうケースが多くなっている現状もある。

計画相談における質の向上に取り組んでいくことが重要となる一方で、このような現状がみられることから、各市町の自立支援協議会などで地域の実情を把握することや、現状をより良くしていくための取り組みの検討が必要であると考えます。

【障害児等療育支援事業】

ゆたか会スタッフを必要に応じて配置し、主に北播磨圏域在住の「知的障害児・者」「身体障害児」「重症心身障害児・者」とその家族の方々に対して「訪問療育等指導事業」「施設支援一般指導事業」の2事業を実施。

【在宅支援訪問療育等指導事業】

事業実施件数 (A+B) I		460件		事業委託件数		460件			
再委託先実施件数 II		件		(うち再委託件数		件)			
合計 I+II		460件							
巡回相談従事職員の状況									
職種	施設長	医師	看護師	理学療法士	作業療法士	指導員	保育士	その他	
(実人員) 延従事件数	(1人) 12件	(1人) 6件	(1人) 1件	(2人) 106件	(1人) 53件	(1人) 4件	(2人) 67件	(1人) 13件	
計	実人員 (8人)			延従事件数 262件					
家庭巡回相談対象障害児(者)の障害種別									
区分	身体障害児				知的障害児(者)		重症心身障害児(者)		その他 障害児
	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	18歳未満	18歳以上	18歳未満	18歳以上	
(実人員) 延相談 件数	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(1人) 12件	(12人) 113件	(21人) 137件	(人) 件
計	実人員 (34人)				①延相談件数 262件				
地域巡回相談実施か所種別									
区分	保育所	幼稚園	学校	作業所	施設	行政機関	その他	計	
(か所) 開催数	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	(か所) 回	
地域巡回相談対象障害児(者)の障害種別									
区分	身体障害児				知的障害児(者)		重症心身障害児(者)		その他 障害児
	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	18歳未満	18歳以上	18歳未満	18歳以上	
(実人員) 延相談 件数	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	
計	実人員 (人)				②延相談件数 件				
A 巡回相談事業実施件数 (①+②) 262件									
健康診査従事職員の状況									
職種	医師	看護師	知的障害者福祉司	保健婦	その他	計			
(実人員) 延従事件数	(1人) 1件	(3人) 197件	(人) 件	(人) 件	(人) 件	(4人) 198件			
区分	健康診査対象者の障害種別			健康診査の内容					
	重度知的障害者	重症心身障害者	計	健康診査・保健指導	生活指導・介護指導	その他相談指導	計		
(実人員) 延健診件数	(人) 件	(31人) 198件	(31人) 198件	(31人) 198件	(人) 件	(人) 件	(31人) 198件		
B 訪問による健康診査 延健康診査件数 198件									

施設支援一般指導事業

事業実施件数（各棄Aの計） I 100件				事業委託件数 100 件					
再委託先実施件数（各棄Aの計） II 件									
合 計 I + II 100件				(うち再委託件数 件)					
従事職員 の 状 況	職 種	施 設 長	医 師	看 護 師	理学療法士	作業療法士	指 導 員	保 育 士	そ の 他
	(実人員)	(人)	(人)	(1人)	(1人)	(1人)	(2人)	(1人)	(1人)
	延従事件数	件	件	2件	3件	1件	55件	21件	24件
	計	実人員 (6人)			延従事件数 120件				

【加西市障害児タイムケア事業】

加西特別支援学校の小学部～高等部在籍の児童について、放課後および長期休暇期間の預かりを実施。
(利用にあたっては保護者が就労している等の条件あり)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍者数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
開所日数	19	19	22	20	21	19	20	20	19	19	20	22	240
延利用者数	161	172	189	177	177	151	171	177	164	155	178	186	2058

【西脇市障害児学童保育事業】

北はりま特別支援学校の小学部～高等部在籍の児童について、放課後および長期休暇期間の預かりを実施。
(利用にあたっては保護者が就労している等の条件あり)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍者数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
開所日数	25	23	26	25	22	23	24	23	22	22	24	26	285
延利用者数	197	183	208	200	181	194	204	185	197	185	178	224	2336

【発達障害者支援センター ブランチ事業】

「ひょうご発達障害者支援センター クローバー加西ブランチ」

自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）などの発達障害をもつ本人、家族、関係施設、関係機関のスタッフなどに対して支援を行なう。より身近な地域で相談・療育や情報提供を総合的に行う。

平成 28 年度 発達障害者支援センター事業実施状況報告

表1

センター名	ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西プラザ	所在地	兵庫県加西市北条町東高室959-1		
事業開始年月日	平成17年6月1日	再委託の場合の再委託先法人名 (施設名)			
法人名 (施設名)	社会福祉法人 ゆたか会	常 勤	非 常 勤		
職員の状況		医師	医師以外	医師	医師以外
	専 任	0人	2人	0人	1人
	兼 任	0人	0人	0人	0人

夜間・緊急時対応施設名 (複数ある場合は全て記載)					
事業内容				実績	
1. 相談支援・発達支援 (* 下記2. を除くすべてのケース)	(1)実支援人数・延支援件数	実支援人数	209 人		
		延支援件数	882 件		
	(2)医学的診断、心理学的判定	実診断人数	0 人		
		実判定人数	28 人		
	(3)夜間等の緊急時保護、行動障害による一時保護	実支援人数	0 人		
		延支援件数	0 件		
(4)相談支援・発達支援に伴う情報共有等(調整会議)				100 件	
(5)相談支援・発達支援に伴う関係機関職員への助言(機関 コンサルテーション)				27 件	
2. 相談支援・就労支援 (* 就労支援に重点を置いた支援が行われたケース)	(1)実支援人数・延支援件数	実支援人数	17 人		
		延支援件数	63 件		
	(2)相談支援・就労支援に伴う情報共有等(調整会議)				38 件
	(3)相談支援・就労支援に伴う関係機関職員への助言(機関 コンサルテーション)				9 件
3. 地域住民等に対する普及啓発	(1)パンフレットの作成等				1 件
	(2)地域住民向け講演会の開催等				0 回
4. 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	(1)センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	13 回		
		延参加人数	124 人		
	(2)外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	実施回数	96 回		
		延参加人数	1254 人		
	(3)((1)及び(2)の再掲)教育関係者との合同 研修会	実施回数	37 回		
		延参加人数	646 人		
5. 関係施設・関係機関等の連携	(1)連絡協議会の開催状況	実施回数	4 回		
	(2)障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	20 回		
	(3)他の協議会への参加状況	参加回数	18 回		
6. 職員の研修派遣状況				参加回数 20 回	

8（介護予防）小規模多機能型居宅介護どっこいしょ

（1）事業の実施状況

①総括

利用している後期高齢者が加齢による身体機能の低下・認知機能の低下等が進行していく過程で、その人らしさを維持しながら、自宅で最期を迎えられるようにターミナル・看取り介護の実施を目標としている。しかし、内部疾患や転倒後の機能低下等で医療依存が高くなることや、認知症の進行により家族介護が困難になる等の理由で療養型病床への長期入院や特別養護老人ホーム入所のための利用解除が、平成28年度は4名あった。事業方針である「加齢に伴って身体障害が生じても認知症が重度でも普通に自宅で暮らすことを実現する」ためには、事業所運営のあり方・職員間での理念の共有・チームケアの在り方等課題がある状態である。

地域においては、地域住民と協働して地域福祉の推進を目指している。住民との交流の場をもち、地域課題を抽出し一緒に解決していけるような取り組みを提案している。あくまでも、専門職主体で課題解決を進めないようにし、住民の主体形成支援を行っている。そして、地域での次世代育成を目標にし、幼稚園・保育園との交流も実施している。子ども達がどっこいしょに興味を持ち、自ら関わろうとすることが増えてきている。また、加西市内の地域密着型介護保険事業所のネットワーク化を図り、制度で定められた事業だけではなく幅広く加西市内の後期高齢者等の問題に対応するための基盤づくりに取り組んだ。

②利用状況

利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合計(人)	27	27	28	28	28	28	27	27	27	26	26	26
利用率	82.8%	93.1%	96.6%	96.6%	96.6%	96.6%	93.1%	93.1%	93.1%	89.7%	89.7%	89.7%
備考						入院1	入院1	入院2		入院1		
平均介護度	1.9	1.9	2.0	1.9	2.1	2.0	1.9	2.1	2.0	1.9	2.0	2.0
通い利用者数(延べ人数)	326	330	331	328	359	340	370	362	346	289	292	310
稼働率(1日定員18名)	60.4%	59.1%	61.3%	58.8%	64.3%	60.9%	66.3%	64.9%	62.0%	51.8%	52.3%	55.6%
訪問数(延べ回数)	315	327	332	357	283	214	242	253	292	304	293	330
稼働率(月200件)	157.5%	163.5%	166.0%	178.5%	141.5%	107.0%	121.0%	126.5%	146.0%	152.0%	146.5%	165.0%
泊り利用者数(延べ人数)	64	74	86	84	112	108	110	100	121	77	87	83
稼働率(1日定員6名)	35.6%	39.8%	47.8%	45.2%	60.2%	58.1%	59.1%	53.8%	65.1%	41.4%	46.8%	44.6%

- ・利用登録定員29名に対し、稼働率100%になったことはない。事業所の規模、職員配置の状況から100%にすると、職員の負担感が増し支援に支障をきたす状況であった。
- ・平均介護度は1.9～2.1。どっこいしょを利用することで、介護度が下がる方が多い。加齢に伴う身体機能の低下や認知症の進行により、介護度が上がると転倒したり、家族介護が難しくなったりし在宅生活が困難になり入院や施設入所となるケースがある。また、入院後死亡することもあり介護度の高い方の継続利用が難しいので平均介護度は上がらない。

- ・夏から冬にかけて体調不良のための入院等により利用者の確保が難しい状況になる。
- ・通いの利用は希望があるが、利用人数を抑えている状況である。日中過ごす場所が狭かったり入浴の希望者が多かったりし対応が困難な状況である。ハード面での課題は大きい。
- ・通いの件数が減っている分、訪問で対応することが増えているため訪問の稼働率は高い。
- ・泊りは6名定員だが2～3名の日が多い。居室の確保が困難なことや夜間の支援体制の不備により、認知症状態の方が複数名泊りを利用することが困難な状況にある。
- ・職員（管理者含む）6名で夜勤を回している。6名中5名が正規職員であり、夜勤の回数が多く日中活動を中心に担う機会が少ない。

③地域活動

	概要
西在田保育所・幼稚園交流	<ul style="list-style-type: none"> ・行事・幼稚園・保育園に訪問 12回/ どっこいしょに来所 3回 ・その他・梅林・虹の里農園での収穫作業 ・行事等を通して交流し、行事がない時でも気軽に挨拶したり、遊んだりできる関係づくりをしている。子ども達が手作りのカード等のプレゼントを持ってきてくれるので、どっこいしょでも折り紙で作った人形等昔ながらの遊びを取り入れたプレゼントを持って行くようになった。子ども達が、日本の文化に触れる機会にもなっている。
絆カフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・下若井町自治会が主催するカフェの運営を担っている。 ・毎月実施し、地域住民とどっこいしょ利用者や若者との交流の場を作っている。
認知症キャラバンメイト養成講座実施	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の福祉教育の時間に、認知症の講座を開催。（日吉小学校・西在田小学校） ・市役所職員・地域ボランティア等を対象に開催。 ・6回開催
認知症徘徊模擬訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・福居町の徘徊模擬訓練に協力
町行事	<ul style="list-style-type: none"> ・若井町が企画する、ふれあいまつり等に参加。 ・実行委員を担い、当日の運営協力を行うこともある。
運営推進会議の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1回の運営推進会議を開催 ・西在田地区の地域課題について検討
小規模多機能型居宅介護事業所連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1回開催。 ・合同研修会等開催
地域密着型事業所連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所連絡会で情報共有等実施 ・研修会の開催（2回） ・介護・福祉フェア開催。認知症や介護保険の啓発活動 ・RUN 伴（認知症啓発・当事者参加）の企画・運営 ・複数事業所連携事業として兵庫県社会福祉協議会から委託金を受託

(2) 事業の評価

①利用者支援

- ・利用者家族に事業評価のためにアンケートを実施した。
- ・サービス提供に関しての不満等は概ね見られないが、以下の点に関して事業所内で善処する必要があった
 - ＊送迎の時間が予定より遅れる際に、連絡がない。
 - ＊職員の言葉遣いや服装は社会人として適切でないと感じている。
 - ＊本人がサービスに満足しているかどうかわからない
- ・サービス提供について
 - ・職員全員に自己評価表の作成を実施し、サービス評価を実施
 - ・評価項目
 - ・初期支援について（利用当初の関わりについて）
 - ・自己実現の尊重（「～したい」の実現）
 - ・日常生活の支援
 - ・地域での暮らしの支援
 - ・多機能性のある柔軟な支援
 - ・連携・協働
 - ・運営
 - ・質を向上するための取り組み
 - ・人権・プライバシー
 - ・評価表を集計した結果、アセスメント力に職員に力量の差があり個別ニーズへの対応に不十分な点がある。
 - ※根拠となるデータ（一部抜粋）
 - ・「本人の望む暮らし」を理解できていますか？の設問に対し46%の職員が「あまりできていない・ほとんどできていない」と回答している。
 - ・本人の当面の「～したい」（望む暮らしを実現・継続していくためにすべきこと）を目指した日々の関わりができていますか？の設問に対し62%の職員が「あまりできていない・ほとんどできていない」と回答している。
- ・家族アンケートでは概ね不満はないが、職員は小規模多機能型居宅介護としてのサービス提供のあり方や、個別対応・認知症の人への対応の不備等に課題があることを自覚している。

②地域活動

積極的に地域住民と関わることで、地域における福祉課題がどっこいしょに持ち込まれることが出てきている。社会福祉法人が運営する小規模多機能型居宅介護として、地域貢献は充実してきていると考える。

カフェの開催や住民が集まる場に参加することで、地域住民の声を直接聞き必要な支援を検討している。西在田地区では、独居の増加、高齢者のみの世帯等が増加し、団塊の世代では「漠然とした不安」が広がっている。そのような不安を解消し、10年後も住民が協力し合って生活できるように、「集まれる場」「居場所づくり」を進めている。また、15歳以下の子ども達

との関わりを深めていくことで、次世代の互助機能を高めることを考えている。子ども達の中で、少しずつ、地域の事・高齢者の事・認知症の事・障害の事等を考える基盤ができています。

また、加西市内の地域密着型サービス提供事業所と意見交換や情報共有をし、地域貢献活動を実施。事業所連合として組織化をした。

(3) 次年度へ向けて

①個別支援の充実

- ・利用者のニーズを理解し個別に必要な支援を提供するために、集団で行う行事を廃止し、個別の外出の充実を図る。
- ・職員研修を月1回開催し、支援の質の向上を目指す。
- ・必要の支援を効率よく提供することで、利用率を上げる。
- ・認知症の人への対応力を向上し、地域生活が困難にならないようにマネジメントする。

②地域福祉の推進

- ・徐々に、地域での知名度があがり「なんかあったらどっこいしょに相談したら良いな」との声も聞かれることがある一方で、多くの住民と関わることで否定的な声も聞かれることもある。地域から求められる事業所となるように、地域活動への参加を積極的に行う。
- ・次世代育成のための活動は、主に幼稚園・保育所との交流で進めていく。
- ・地域密着型事業所連絡会では、研修会の開催・地域貢献等、複数の事業所で協力して実施する。
- ・北播磨圏域の地域密着型事業所のネットワーク化を進める。

③その他

- ・平成30年度は介護保険改正がある。利用者確保することを重点に置きながら、法改正に対応できる体制作りを実施する。
- ・事業所のハード整備を計画的に実施する。
 - ・スプリンクラー設置
 - ・台所改修
 - ・建物の劣化箇所の必要な修繕
 - ・庭・畑の有効活用

9 事務部門

(1) 事業の実施状況

平成 28 年度は、通常の事務業務のほか、「社会福祉法人制度改革」に対応するため、整備が必要な項目について整理し、次の項目について取り組んだ。

① 法人事務業務

- ・定款の変更、定款施行細則の制定、経理規程の改廃、評議員選任・解任委員会運営細則の制定、役員等報酬規程の制定等関係諸規程の整備
- ・理事会の開催（4回）

開催日時	場 所	出席数	議 案
5 月 27 日 20:30 から	加西市健康福祉会館 ふれあいの間 2	理事 5 名 監事 1 名	H27 年事業報告、決算報告、監事監査報告 H28 共同募金受配要望、理事長専決事項
11 月 30 日 21:10 から	加西市健康福祉会館 研修室 2	理事 5 名 監事 1 名	定款の変更、評議員選任・解任委員会運営細則の制定及び委員の選任、評議員選任候補者の推薦及び役員等の候補者選定、役員等報酬規程、特定個人情報等の適正な取扱に関する基本方針及び特定個人情報取扱規程、フラワーハイツ改修にかかる資金の借入れ、障害福祉サービス事業者等に対する実地指導の結果、理事長専決事項
3 月 28 日 21:20 から	加西市健康福祉会館 ふれあいの間 2	理事 4 名 監事 1 名	H28 第 1 次補正予算、定款変更（基本財産追加）、金融機関からの借入金に供する基本財産の担保提供、定款施行細則の制定、就業規則の改正、経理規程の制定、H29 事業計画、当初予算、理事・監事・評議員の改選について職員会より総会開催に関する申し入れ、理事長専決事項
3 月 30 日 16:05 から	希望の郷会議室	理事 6 名 監事 1 名	理事長の互選について

・評議員会の開催（3回）

開催日時	場 所	出席数	議 案
5 月 27 日 19:00 から	加西市健康福祉会館 ふれあいの間 2	評議員 8 名 監事 1 名	H27 年事業報告、決算報告、監事監査報告 H28 共同募金受配要望、理事長専決事項
11 月 30 日 19:00 から	加西市健康福祉会館 研修室 2	評議員 12 名 監事 1 名	定款の変更、評議員選任・解任委員会運営細則の制定及び委員の選任、評議員選任候補者の推薦及び役員等の候補者選定、役員等報酬規程、特定個人情報等の適正な取扱に関する基本方針及び特定個人情報取扱規程、フラワーハイツ改修にかかる資金の借入れ、障害福祉サービス事業者等に対する実地指導の結果、理事長専決事項
3 月 28 日 19:00 から	加西市健康福祉会館 ふれあいの間 2	評議員 10 名 監事 1 名	H28 第 1 次補正予算、定款変更（基本財産追加）、金融機関からの借入金に供する基本財産の担保提供、定款施行細則の制定、就業規則の改正、経理規程の制定、H29 事業計画、当初予算、理事・監事・評議員の改選について職員会より総会開催に関する申し入れ、理事長専決事項

- ・法人制度改革に対応した役員会の整備、評議員選任・解任委員会の設置
評議員選任・解任委員会の開催：3月7日11:00から 委員3名及び理事長
- ・事務局体制の強化（4月から事務課長1名、1月から事務係長3名配置）

② 経理事務業務

- ・事務の効率化（消耗品等の一元購入、購入先の見直し等）
- ・平成29年度予算の立案（大規模修繕、大型物品、新規事業等の予算化）
- ・財務状況の定例報告の実施（原則毎月）
- ・障害福祉サービスの請求事務の見直し（一部事業所へ）

③ 労務事務業務

- ・労務事務に係る諸様式の統一化（勤務実績等）
- ・給与支給に関する処理の効率化（手順の見直し等）

④ その他業務

- ・利用者の預かり金管理事務の効率化（様式の見直し）
- ・建物、備品の営繕・改修等の実施
- ・新規事業への参画（大空の整備、THREE-Pの整備）
- ・広報委員会の開催（HP開設、広報誌年3回発行、PR用パンフレット検討）

(2) 事業の評価

① 法人事務業務

社会福祉法人制度改革のスケジュールに沿って、定款の変更や関係諸規程の改正、役員をの体制を整備することができた。

また、事務局体制の強化を図るため、平成28年4月に事務課長職を新たに配置し、平成29年1月に事務係長を1名配置した。事務職員4名となり、制度改革への対応や事務業務の見直しを図ることができた。

② 経理事務業務

事務の効率化を図るため、消耗品のネット注文を法人で一元化することにより従来の購入価格からさらに6%の削減を図ることができた。また、物品購入先を一部見直し、質は維持したままより安価に購入できるよう取り組むことができた。

経営開発センターと連携し、財務状況を毎月報告することにより事業所単位での財務状況を明確にすることができた。また、管理者と情報を共有することで経営意識を相互に高めることができた。平成29年度予算作成業務の一部を管理者、事務部門が担うことができた。

障害福祉サービスの請求事務についてはこれまでにじいろ、どっこいしょ以外は法人事務の方で行っていたが、はんど（計画相談）及びTHREE-Pの請求事務を平成29年度4月から各事業所の方で行う方向で調整し、はんどについては平成29年4月請求分から請求事務を開始した。

③ 労務事務業務

年休及び超過勤務、パート職員の勤務実績に係る様式を統一化し、各事業所で運用することで、職員の勤怠情報の効率化を図ることができた。給与事務の手順を簡略化し、給与の支給誤りを減らすように努めた。

④ その他業務

利用者の預かり金の様式を見直し、処理がしやすいように改正した。

エアコンなど老朽化が顕著な備品等については更新し、故障した箇所については極力早く対応するなど利用者が快適に過ごせるよう努めた。

また、新規事業を見据えて厨房のスチームコンベクションを能力の高いものに更新し、いつでも新規事業に対応できるよう整えた。

法人が計画している新規事業の会議等に参画した。

共同生活援助事業大空、生活介護事業輝きについては、加西市の助成金申請、改修工事の入札、借入金の計画等を滞りなく実施することができた。

THREE-Pの整備については、検討会議に参加し、特に自立訓練（生活訓練）事業の内容について検討した。

広報委員会を開催し、広報誌「ゆたかジャーナル」を年3回発行した。ホームページをリニューアルし、法人の取り組みを広く知ってもらえるよう取り組んだ。また、PR用のパンフレット作りに取り掛かるなど、人材確保を含めた広報活動を実施した。

(3) 次年度に向けて

① 法人事務業務

計画的にスケジュールを立てて、円滑に理事会や定時評議員会が開催できるよう努めたい。諸法令を遵守し、必要に応じて関係諸規程の改正や新しい規程類を整備していく。

事務局体制の強化を図るため、法人事務局としての役割・機能を明確にしていく必要がある。

② 経理事務業務

これまで外部に委託していた経理業務が平成29年度より法人に移行することから、円滑に業務移行ができるよう委託先と連携を取りながら、経理業務を把握、整理し、移行に必要な準備をする必要がある。これまで以上に各事業の管理者との連携が必要不可欠であることから予算のこと、収支状況のことなど経営という視点を共有していけるよう努めたい。

③ 労務事務業務

労務・給与事務のさらなる効率化を図るとともに、複数のチェック体制を引き続き取ることで、支給誤りが無くなるよう努めたい。

④ その他業務

建物・備品等の老朽化対策として、故障の多い箇所を把握し、早めに対応できるよう努めるとともにコスト面も含めて更新する方が良いものについては検討していきたい。

共同生活援助事業大空、生活介護事業輝きの開設に向けて、開設準備室と連携を取りながら事務としての役割を果たしていく。

THREE-Pの整備については、引き続き検討会議に参加し、平成31年度の開設に向けて準備をしていきたい。

引き続き広報委員会を開催し、広報誌「ゆたかジャーナル」の定期発行、ホームページの更新、PR用のパンフレットの完成に向けて取り組んでいきたい。

